

貝毒成分・有害プランクトン等モニタリング事業（抄録）

勢村 均・井岡 久・山根玲子

要 約

1. プランクトンおよび水質調査点を、浦郷、恵曇、浜田とし、4月下旬から8月上旬にかけて水温、塩分（比重）、溶存酸素、N、P、Chl-a、貝毒原因プランクトン、および天候を調査した。
2. *Alexandrium catenella* は、浜田で6月中旬に出現した。出現細胞数は約100細胞/1であった。出現した時期の水温:18.1-18.3℃、NH₄-N:0.13-0.45 μg-at/l、PO₄-P:0.24-0.29 μg-at/l、Chl-a:1.5-2.3 μg/lであった。
3. *Alexandrium tamarenis* は、浦郷で4月下旬から7月中旬に出現した。出現細胞数は40-520細胞/1であり、6月下旬から7月中旬にかけて多く出現した。出現した時期の水温:17.2-22.9℃、NH₄-N:0.02-0.03 μg-at/l、PO₄-P:0.01-0.48 μg-at/l、Chl-a:0.54-5.53 μg/lであった。
4. 貝毒は、毒化原因プランクトンが出現した6月中旬に、浜田で検出されたが規制値以下であった。

*詳細は、平成7年度貝毒成分・有害プランクトン等モニタリング事業報告書を参照のこと。